

イギリス、ロンドンのRoyal College of Art (RCA、王立芸術大学院)、Innovation Design Engineering 学科の博士課程に所属している、吉本英樹です。現在の研究内容と、学外活動の状況などをレポートしたいと思います。

研究の進捗

博士課程も最終学年となり、最後の制作にとりかかっています。これまで試行錯誤を続けてきた「リズムをもった物のデザイン」というテーマをさらに発展させて、「リズム」をキーとしたものと人とのインタラクションについていくつかの実験をしているところです。例えば雨の音にどこかリズムを感じたり、同じ音楽でも聞く人によってリズムの捉え方が違ったり、リズムというのは、そこに存在するものではなく、人の中に現象するもの、人が体験して初めて生まれるものです。そこで現在の実験では、ものの振る舞いの中に体験者がリズムを感じ、そのリズムを何らかの方法でものに伝え、ものがそのリズムを強めたり弱めたりするように新しく振る舞い、またその振る舞いの中に人が新しいリズムを感じ、というように、ものと人がリズムの感じ方をキーにしてやりとりをしながら、関係が収束したり発散したりを繰り返すようなインタラクションを作る方法について考えています。同時並行で、博士論文の執筆も始めています。工学やサイエンスのように、ある特定の専門分野の現状にさらに積み重ねて分野を発展させていくような方法とは対照的に、私の論文では、音楽、文学、哲学、宗教、生物学、数学、コンピュータサイエンスといった様々な分野から、リズムというキーワードで興味深い研究や事例を引き出し、それを自分の視点でまとめながら、自分が提案し制作したものを論じるというような方法をとることになりそうです。修士の時とはかなり違った方法ですが、この4年間の新しい環境で学んだ色々の集大成として、こういった新しい方法で、デザインの論文を仕上げることにワクワクしています。

学外の活動

前回のレポートでは、学外で結成したデザインスタジオtangent:の活動について報告しました。tangent:はもちろん博士課程のバックグラウンドの活動ですので、大々的に続けているわけではありませんが、それでも幸い、ヨーロッパのかなり有名なブランドから作品使用の依頼を頂いたりしています。来年の夏～秋、博士課程の最終試問の頃を境にして、さらに加速していくような流れが出来上がってきており、とても理想的な形で、学業からビジネスへとスイッチしていける準備が整って来ました。引き続き、この両輪をよいバランスをキープできるよう頑張っていきたいと思います。